



発行日：平成 26 年 2 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 5 回川の地域部会を開催しました！

川部会の今年度最後の会議として、川の地域部会を開催しました。
本川モデル、家下川モデル、地先モデルについて、今年度の活動成果のとりまとめと来年度の活動計画（案）について話し合い、川部会として、全体会議に報告する内容を確認しました。

日 時：平成 26 年 1 月 16 日（木）14:00～17:00

会議場所：豊田市産業文化センター 大会議室

参加者：25名（事務局含む）



◆主な意見交換内容

1. 地域部会の内容



■活動成果報告について

- 本川モデルの微地形の多様性について、低水路の幅が色々な微地形や生物の生息場所にと大きな関係があり重要だということを記述する。
- 川幅を単調に広げればよいわけではなく、人間や生物、魚場、景観など色々な都合があり、目的の多様性と場の多様性も含めて考える必要があることを確認した。



■来年度の川部会の活動計画（案）について

各モデルの来年度の活動内容について意見交換し、方針を決定しました。

【本川モデル】

- 生き物の移動阻害（加茂川の段差改善の検討、作業の実施）と微地形の多様性について、優先的に検討していくことを確認した。
- 国や各自自治体の計画や工事の情報提供は、早めのスケジューリングを心がけ、モデル地区にとらわれずに、積極的にWGに情報提供いただくこととし、WGで議論しているものにしていくことを活動の一つに位置付けることとした。



【家下川モデル】

- 排水機場の改修に伴う承水溝 - 長池の段差改善は、短時間の検討が必要であることを確認した。また、農業用水路がある他地域にも応用が利く承水溝の浚渫についても、優先的に検討していくことを確認した。



【地先モデル】

- 活動団体のマップについて、WGメンバーで情報を持ち寄ってマップを作成していくことを確認した。
- 流域圏懇談会の川部会が全ての地先の問題を解決できるわけではなく、どう関わられるかの議論をしていく必要があることを確認した。



■活動運営に向けて

- モデルを設けた時の初心に立ち返り、各モデルの検討に進展があれば、流域全体に還元することを念頭においてWGを進めていくことを、一つの活動方針とする。
- モデルだけに当てはまる成果ではなく、流域全体に適用できる成果とするために、実現の手段やプロセス、チャンネル（人と人のつながり）というノウハウを蓄積することを目指す。
- 来年度（全8回のWGとした場合）は、本川モデル：3回、家下川モデル2回、地先モデル：3回とする。

2. 意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 活動成果報告について

- ・魚にとって、川幅はただ広ければ良いというものでなく、川の中に変化が必要である。(新見)
- ・低水路幅が微地形や生物の生息場所に大きな関係があり重要であることを本文に記述してほしい。(内田)
- ・人間、魚場、生物生息場など色々な都合がある中で、どの割合でどんな場を用意すればよいかという考え方もある。目的の多様性と場の多様性も含めて考える必要がある。(鷺見)

(2) 来年度の川部会の活動計画(案)について

【テーマ①生き物の棲みやすい川づくり：本川モデル】

- ・矢作川の河川整備計画について、もう一度説明を聞いて理解した上で、毎年どのような事業、どのような工事を実施しているかを捉えていく必要があると考える。(本守)
- ・早めのスケジュールリングにより、コミュニケーションできる時間を確保できるとよい。(鷺見)
- ・工夫すればもう少し早い段階で計画・工事の情報を出すことができそうである。(事務局)
- ・災害復旧も含め、河川事業は全て多自然川づくりの考え方で実施することになっているので、WGに相談することで、より良い川にできる仕組みになるとよい。(本守)
- ・次年度の活動には、情報共有の場、現地調査の場、バックグラウンドでの検討の場があり、やることはたくさんある。活動にうまくメリハリをつけてはどうか。(鷺見)
- ・昨年度から議論が集中している生き物の移動阻害(加茂川の段差改善の検討、作業の実施)と微地形の多様性について、優先的に検討することとする。(内田)
- ・白浜工区について、研究室で面的な調査を実施予定で、WGでも調査活動の日を設けたいと思う。(鷺見)

【テーマ①生き物の棲みやすい川づくり：家下川モデル】

- ・短時間の検討が必要な事項として、排水機場の改修に伴う問題がある。承水溝の浚渫は、農業用水路がある他地域にも応用が利く問題であり、優先的に検討していく必要がある。(鷺見)
- ・いずれも、事業主体との連絡漏れがない体制にしておく必要がある。(内田)
- ・水量不足については、長池(ひょうたん池)だけでなく、家下川本川も課題になっているので、そのように表現していただくとよい。(本守)
- ・家下川については、現在の方針を微修正で対応することとする。(内田)

【テーマ②地先の課題：地先モデル】

- ・活動団体のマップについて、各自治体が把握している情報を共有できれば、充実した地図になるのではないか。事務局と行政まかせにせず、皆で情報を持ち寄ってマップを作成してはどうか。(内田)
- ・今回、私のところで把握している活動団体のリストを持ってきた。川筋の活動団体にヒアリングするならば、各自治体にも協力してもらい、覚悟を決めて取りかかる必要がある。(本守)
- ・流域圏懇談会の川部会が全ての問題を解決できるわけではなく、地先の課題に対して、どう関われるかに議論の余地があり、議論すること自体が活動の一つになる。(内田)

【活動運営に向けて】

- ・自分たちの活動に対して議論の内容が直結していない感じがしており、これからの活動として、事業や工事などモデルに関係なく取り上げて、地先に関わっていく必要がある。(光岡)
- ・実現の手段やプロセス、チャンネル(人と人のつながり)というノウハウを残すことによって、モデルだけにしか当てはまらない成果ではなくて、広く流域全体に使えるような形の成果にしていくことができる。(鷺見)
- ・山・川・海でつながるものに、水、土砂、ごみ・流木、人の意識などがあるが、現時点で共通して取り組める課題が見出しにくく、全体会議で議論できるとよい。(鷺見)
- ・本川モデル3回、家下川モデル2回、地先モデル3回の割合でどうか。その他に、夏丸さんの活動と連携したい。また、地先で活動している市民団体との関係を強化する方向でいかがか。(内田)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

